

平成30年度 横浜市陶芸センター 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H30年度計画		実施状況		評価		
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
1 陶芸の普及と市民の作陶技術向上の支援	◆体験型教室の開催 ・一日体験教室(手びねり・絵付け)	●一日体験教室の開催 □手びねり・絵付け体験開催数	10回/年	10回/年	10回/年	【成果】 今年度から開催された一日体験伝統古典釉薬講座は、通常の一日体験より一歩踏み込んだ本格的な陶芸を気軽に体験できる講座としてスタートしました。 釉薬の名前は知っているが、通常の陶芸体験教室では制作する機会がない釉薬・粘土を使用し、年齢を問わず陶芸が初めての方でも楽しんで頂けるよう企画しました。企画の検討は一日体験参加者アンケートや対話から得る事ができました。「一日体験の時間内でどれだけ伝統的な釉薬の色や形に迫れるか?」「手びねり技法なのか、初めて電動ロクロで作陶に挑戦をするのか?」「絵付けをして自分で施釉まで出来る講座を選ぶのか?」等、アンケートや対話を参考に、初めての方が陶芸に興味を持つきっかけとなるよう開催しました。受講の募集を始めてから応募人数がまばらでしたが、講座終了後の作品引取時の反応は良く、一日だけではなく数日間の本格的な陶芸体験を希望する要望が増えました。そこから次年度、土曜・日曜・祭日の「週末3日間陶芸講座」の企画へと引き継がれました。	【評価する点】 ・今年度も多彩な各種講座の企画により、陶芸の魅力を伝え、作陶技術の向上の支援に資する活動を行った点を高く評価します。 ・一日体験教室においては、前年度と比較し、目標を達成した講座が増えています。伝統釉薬体験などの新たな企画やSNSを活用した広報等の施設の積極的な取組が成果として現れたものと考えます。 ・一部利用人数が目標に達していない講座もありますが、全体としては、計画に基づき着実に事業を展開することができています。参加人数や収支バランス等も十分に意識しながら、今後も専門性が高く、施設の独自性を打ち出した積極的な講座の実施に期待します。  【更なる取組を期待する点】 ・参加者が目標人数を下った講座については、理由の分析等振り返りを行い、次年度以降の講座企画に活かしてください。 ・費用対効果も意識しながら、各種講座の特長や魅力をより効果的に伝え、受講人数増に繋がるような広報の手法を引き続き検討してください。 ・今後も外国人や子どもを含めた幅広い層に、陶芸の魅力を伝え、興味を持つきっかけづくりに繋がるよう、各種取組を継続することを期待します。	
		□目標利用者数	120人	178人	A			
		・一日体験教室(電動ロクロ)	□電動ロクロ体験開催数	10回/年	10回/年	10回/年		B
		□目標利用者数	130人	96人	C			
		・一日体験教室(季節のやきもの)	□季節の焼き物体験開催数	3回/年	3回/年	3回/年		B
		□目標利用者数	40人	29人	C			
		・一日体験教室(伝統釉薬体験)	□伝統釉薬体験開催数	9回/年	9回/年	9回/年		B
	□目標利用者数	90人	95人	B				
	・親子陶芸教室	●親子陶芸教室の開催 □開催数	10日/年	10日/年	10日/年	B		
	□目標利用者数	350人	325人	B				
	・陶芸祭体験教室	●陶芸祭手びねり体験、ロクロ体験、楽焼の各教室 開催 □開催回数	4日間	4日間	4日間	B		
	□目標利用者数	140人	70人	C				
	◆基礎型教室の開催 ・手びねり初級・中級	●手びねり初級教室の開催 □開催数	2回/年、14日間	2回/年、14日間	2回/年、14日間	B		
		□目標利用者数	290人	233人	C			
		●手びねり中級教室の開催 □開催数	2回/年、14日間	2回/年、14日間	2回/年、14日間	B		
		□目標利用者数	300人	244人	C			
		・電動ロクロ初級・中級	●電動ロクロ初級教室の開催 □開催数	2回/年、14日間	2回/年、14日間	2回/年、14日間		B
		□目標利用者数	230人	186人	C			
	◆電動ロクロ中級教室の開催 □開催数	●電動ロクロ中級教室の開催 □開催数	2回/年、14日間	2回/年、14日間	2回/年、14日間	B		
		□目標利用者数	200人	158人	C			
		◆自律型教室の開催 ・自由作陶教室	●自由作陶教室の開催 □開催日数	350日	349日	349日		B
	□目標利用者数	7,000人	7,393人	B				
	・第2自由作陶教室	●第2自由作陶教室の開催 □開催日数	48日	48日	48日	B		
	□目標利用者数	1,200人	1,100人	B				
◆気軽に陶芸を体験してもらう取組 ・電動ロクロ1日体験(再掲)による市民の作陶体験	●気軽にできる陶芸体験 □電動ロクロ1日体験の開催(再掲)	10日間/年	10日間/年	10日間/年	B			
	・陶芸祭での事前予約なしの体験の場の提供	□予約無しでの陶芸体験	4日間	4日間	4日間	B		
	・各種媒体を使った広報	■新聞・タウンニュース・市営バス内の無料パンフレット等への掲載や陶芸関連書籍、陶芸関連WEBへバナーをアップする。	実施	実施	実施	—		
	・在留外国人向けの英語のチラシ・パンフレット作成	■一日体験・自由作陶教室・貸室等在留外国人向けに英語版のチラシ・パンフレットを作成	実施	実施	実施	—		
	・障がい者の方、ハンディキャップのある方の参加しやすい環境改修の提案	■ハンディキャップのある方が作陶しやすいスペースを確保するために、作陶台周辺や釉掛けスペースのレイアウト改善に向けて検討する。	検討を実施	実施	実施	—		
	・映像による紹介	■一日体験作陶ガイダンス等を映像で紹介説明	実施	実施	実施	—		
	◆次世代育成の取組 ・親子陶芸教室での小学校1年生程度を対象とした陶芸解説資料の作成	●作陶活動への興味を喚起 ■小学校低学年を対象とした焼物に関する解説資料を親子陶芸などで配布	実施	実施	実施	—		
		■手びねりや電動ロクロでの作陶方法を映像でわかりやすく紹介	実施	実施	実施	—		



平成30年度 横浜市陶芸センター 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H30年度計画		実施状況		評価				
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価			
2 市民の主体的な作陶活動の支援	<p>◆専門技能習得講座として、多くのテーマの講座を企画・実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電動ロクロ水挽き徹底教室</li> <li>・絵付け教室</li> <li>・特定のやきもの教室(チャレンジ講座)</li> <li>・還元焼成講座</li> <li>・大物焼成講座</li> <li>・穴窯焼成講座</li> <li>・楽焼成講座</li> <li>・サヤ鉢焼成講座</li> <li>・招待作家講座</li> </ul>	●専門技能習得講座の開催 □電動ロクロ水挽き徹底教室、年間3回、12日 □目標利用者数	3回(12日間)/年 100人	3回(12日間)/年 114人	B A	受講者各自のレベルに合わせて基本から高度な技術まで、電動ロクロの水挽き技術を徹底的に練習する講座。	<p>【成果】</p> <p>今年度の電動ロクロ水挽き徹底講座は新規利用者の向上心と、長期利用者のロクロ技法への再確認の場となり、予想以上に活気のある講座となりました。また、今年度から5日に講座日数を増やしたチャレンジ講座は、より難易度を増した講座となりました。タタラ成形による動物の置物講座、耐熱土で作るオープンウエア講座、石膏型泥漿鑄込み講座(磁器土カップ取手付け)、磁器土練込、スリップウエア模様アクセサリ講座(アクセサリのフレーム、タッチング結び他)など初めての技法を紹介することが出来ました。通常陶芸センターに通われている方で、新たな技法にチャレンジしてみたいという受講者や、フェイスブックにより情報を得た県外や都内からの意欲的な参加もありました。受講者の年齢層は30代~70代と幅広い利用がありました。年齢問わず、新しい学びを得る受講者の姿は教室に活力が生まれました。陶芸祭では利用者の展示会への出品数が昨年を上回り、合わせてアマチュア陶芸展の入選者の展示も行われ盛況のうちに終了しました。今年度の招待作家講座は陶芸作家の伊福部玲氏をお招きし、縄文模様の簡単なひもの捻り方と、丸い石で土を締めて器の形に立ち上げる技法など、古の縄文人の感性を感じられる講座となりました。出来上がった作品は神奈川県七沢森林公園で実際に野焼きをし、焼物作りの原点を降灰と炎の輻射熱にあおられながら体験できる貴重な講座となりました。</p> <p>また、三溪園共催講座は例年の抹茶茶碗づくりではなく、今回初めて楽茶碗づくり、楽焼窯からの引出し体験と三溪園蓮華院茶室での御点前体験も含めた講座を開催しました。応募者多数のため抽選となり当日の欠席者を除くと、ほぼ100%の受講率となりました。</p> <p>【課題】</p> <p>今回のチャレンジ講座の授業内容の中には、アクセサリの細かな作業や泥漿鑄込み講座での磁器土のパーツの取扱など、初めての受講者には少々難しい工程があり、担当講師からの報告では高齢の受講者には(体力的な限界)があるので、もう少し緩やかにステップアップができる講座も必要という意見もありました。また、通常の器以外の焼物の講座(動物置物講座や縄文土器講座)など、作陶技法のヒントとなりうる要素のある講座は一歩踏み込み、陶芸の幅広い楽しみ方を発信していきたいと思います。</p>			
		□絵付け教室 □目標利用者数	2回(6日間)/年 70人	2回(6日間)/年 57人	B C	和絵の具を使用する入門講座。骨描き(輪郭線)~和絵具(玉くすり)の臥せ方まで。				
		□特定のやきもの講座(チャレンジ講座) □目標利用者数	4回(20日間)/年 200人	4回(20日間)/年 201人	B B	講師・アドバイザーの推奨する講座の開講。チャレンジ講座の時のみ使用できる専用専用の粘土、釉薬を用第1回、9人・第2回、29人・第3回、73人・第4回、90人合計201人				
		■還元焼成講座の随時開催 □目標利用者数	実施 900人	随時実施 727人	- C	赤土や、銅赤釉、染付けなどで(呉須)酸化焼成との違いを発見する。 貸室 298人、自由作陶教室 429人				
		□大物焼成講座の開催 □目標利用者数	2名/月 24人	2名/月 24人	B B	350×400×450mm以内の大物作陶に挑む。				
		□穴窯焼成講座の開催(R元年度に開催) □目標利用者数	隔年開催(R元年度に開催) 隔年開催(R元年度に開催)	隔年開催(R元年度に開催) 隔年開催(R元年度に開催)						
		●その他単発講座の企画・実施 □三溪園共催講座 □目標利用者数	1回 40人	1回 47人	B A	陶芸センターで制作した抹茶茶碗を楽焼窯で焼成体験をし、三溪園『蓮華院』茶室で自作楽茶碗での御点前を楽しむ。				
		□一日上絵付け講座の開催 □目標利用者数	1回 16人	1回 5人	B C	3日間の上絵付け講座を受講した人が受講する上級講座。午前と午後丸一日通しての集中講座。通常の上絵付けに赤絵、金彩も可能。				
		□穴窯焼成講座の開催(R元年度に開催) □目標利用者数	隔年開催(R元年度に開催) 隔年開催(令和元年度に開催)	隔年開催(R元年度に開催) 隔年開催(R元年度に開催)						
		●招待作家(外部)による特別上級講座1回(年間) □目標利用者数	1回/年 24人	1回/年 12人	B C	陶芸作家、伊福部玲氏による縄文土器を当時の道具を使い製作。実際に野焼きの工程を体験する講座。				
		◆作陶活動の成果発表の場の提供 ・陶芸祭での作陶展、ホームページで実施するネット特別賞、「全国公募・アマチュア陶芸展」による全国規模の作品発表の場の提供 ◆ページで実施するネット特別賞	□陶芸祭時に作陶展を年1回開催 全国公募・横浜アマチュア陶芸展開催 ※「全国公募・アマチュア陶芸展」は隔年開催 ■ホームページ上でのネット特別賞発表	1回/年 実施	1回/年 実施	B -		出品総数133人(陶芸センター利用者83人が出品展示。アマチュア陶芸展入選者50人『全国公募・アマチュア陶芸展』応募総数は192点で入選50点の展示会となりました。) 『アマチュア陶芸展』ネットによる投票総数72人、		
		◆(指定期間5年間において)新講座、実験的講座の開講	■新講座として、季節の焼き物体験を開講 ■講師・アドバイザーの推奨するチャレンジ講座の開講	実施 実施	実施 実施	- -		伝統古典釉薬9回、こどもの日1回、夏休み楽焼体験教室1回 磁器土を使ったアクセサリ講座、石膏型泥漿鑄込み(磁器土)講座。陶土で大型の動物置物を制作講座。鍋土(耐熱土)で作るオープンウエア講座。		
		3 市内の公益的作陶活動に対する支援	◆公益的作陶活動の施設指導者対象の研修講座の開催	●陶芸指導者研修講座 □開催数 □目標利用者数	1回/年 13人	1回/年 22人		B A	市内小中学校と特別支援学校からの参加。	<p>【成果】</p> <p>今年度開催された指導者研修講座は前年度に比べ6人増の22人となりました。公共機関からの陶芸に関する電話相談は電気炉焼成装置の取扱に関するものが2件、小机小学校陶芸サークル、大磯スティファン学園からの問い合わせがありました。</p> <p>【課題】</p> <p>指導者研修講座の今年度の申込は、昨年度に比べ多少増加しましたが、研修は質疑応答形式と作陶実習方式で行われました。研修に参加されている参加者同士のディスカッション等を取り入れ、より内容の濃い講座を目指します。団体教室の参加人数が減少傾向のため、団体ごとに可能な範囲で要望を取り入れ、より陶芸体験の思い出に残るような講座を目指します。</p>
			◆公共機関等で陶芸の知識を持たない機関に対する相談対応。	■陶芸についての相談、出張教室の要望等について積極的に対応	実施	実施		-	電気炉の取扱方法2件	
			◆(指定期間5年間において)出張教室・講座等の対応等、陶芸知識の発信による基地化	●公益的な作陶活動への情報発信 □学童保育へのDM発送	実施 1回/年	実施 1回/年(218通)		- B	市内小中学校と特別支援学校への 案内チラシ514通発送 団体教室案内チラシを学童保育へ218通発送	
	●陶芸知識の基地化 ■陶芸についての相談、出張教室の要望等について積極的に対応(再掲) ●団体教室の開催 □開催数 □目標利用者数		実施 10件/年 360人	実施 10件 179人	- B C	電気炉の取扱方法2件(市内小学校陶芸サークル)陶芸素材、陶芸窯等相談対応(市外含む)計7件 学童クラブと保育所				

【評価する点】

- ・招待作家による講座、三溪園との共催企画、全国公募・アマチュア陶芸展の開催など、施設の独自性、専門性を発揮した企画を立案、実施したことを高く評価します。三溪園との共同企画は、多数の応募がある人気企画となりましたが、次年度以降もブラッシュアップしながら魅力ある企画を継続していただくよう期待します。
- ・特に招待作家講座における野焼きによる縄文土器の作成では、講師との事前調整に加え、市外の野焼きが可能な場所の探索と実施に向けた各種調整、講座実施風景の映像記録の作成など、企画に際し手間を惜まず、きめ細かな取組を行っているを評価します。

【更なる取組を期待する点】

- ・一部利用目標を下回っている講座もありますが、専門施設として事業実施の必要性を検証のうえ、効率的かつ効果的な企画立案を行ってください。また、講座の内容に応じた適切な目標設定も検討してください。



平成30年度 横浜市陶芸センター 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H30年度計画		実施状況		評価			
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価		
4 陶芸と市民及び来街者を結びつける場づくり	◆施設の象徴としての登り窯の活用	■見学用として活用するほか、公園内におけるパネル掲出場所として活用	実施	登り窯の構造パネル	—	昨年に引き続き、登り窯の構造断面図の掲示	【成果】 登り窯の構造断面図の掲示は公園内を散策されたり、陶芸センター見学者がスマートフォンで写真を撮影する姿が多く見られるようになりました。ホームページでの動画再生回数も増加しました。陶芸祭では近隣にお住まいの方から、毎年陶器市やバザー、お茶の御点前を楽しみにしていると、開催中よく声を掛けられました。陶芸祭案内チラシは近隣町内会に4万部新聞折り込みで配布しました。また、紙媒体による講座等の発表枚数は全体で47万8千部になりました。電話やホームページからの陶芸に関する問い合わせは、陶芸素材、急須の鑑定依頼、ガス窯の点火手順、窯業機材の処分、アマチュア陶芸展受賞者のプロ・アマ基準についてなど、質問が多岐にわたりました。 【課題】 講座や陶芸祭の問い合わせについて、度々寄せられるので早めの情報発信、周知を行う。	【評価する点】 ・周辺施設と協力し陶芸祭を開催することにより、市民の皆さんに陶芸センターを知ってもらう機会を提供することができました。  【更なる取組を期待する点】 ・三溪園を経由しての来訪者、陶芸祭をきっかけとした来館者に対し、施設を知り、陶芸に興味を持つきっかけとなるような企画の実施を検討してください。	
		■象徴的扱いとし、印刷物等で写真を使い紹介	実施	DVD による映像	—	ホームページでの映像紹介、動画再生回数講座案内1331回陶磁器の出来るまで1865回			
	◆(指定期間5年間に於いて)近隣地域と連携した取組を行うための企画検討。	■近隣地域との連携	実施	近隣町内会への案内チラシ	—	近隣町内会に陶芸祭チラシの発布と「元気な本牧根岸まちづくりの会」参加加入			
		■陶芸祭での三溪園・本牧市民公園・地域町内会との連携	実施	期間中の三溪園入場割引	—	陶芸祭と秋祭りの共催。期間中の三溪園入場割引			
	◆陶芸祭で、初めて陶芸にふれる来場者のための企画実施。	■陶芸祭来場者への対応	実施	実施	—	陶器市バザー、アンケート回答により陶芸グッズが当たる抽選会			
		■予約無しでの陶芸体験の実施	実施	4日間の作陶体験	—	当日参加出来るロクロ、手びねり、絵付け、楽焼教室を開催			
	◆お茶会・バザー・作品展示会での興味の喚起	■お茶会・バザー・作品展示会での興味の喚起	実施	手づくり抹茶茶碗のお点前とバザー	—	自分で選ぶ抹茶茶碗でお茶の御点前コーナー、作品展示回の開催			
		◆施設利用促進のための広報・宣伝活動、ホームページや紙媒体の制作の充実	■スマートフォンサイトからのアクセス環境の充のため、テンプレートの改変や新規同化の投入の企画検討	実施	実施	—			ホームページをより検索しやすいように、スマートフォンサイトを更新。
	16	◆すべての講座募集チラシの作成、配布	■すべての講座募集チラシの作成、配布	実施	実施	—			年間講座カレンダーの制作、全講座のチラシの制作
			■陶芸祭チラシの作成、配布	年1回	4万部	—			新聞折込チラシ
■紙媒体への記事掲載の推進			実施	47万8千部	—	神奈川新聞夏休み親子陶芸教室の掲載、NTTタウンページ、地域誌「はと」への掲載			
■ホームページの講座案内年度切り替え			実施	実施	—	全講座年度内切替の実施			
17	◆一般見学者へ質問対応や、陶芸ライブラリー、映像等による詳細な情報、電話やホームページ等を通	■利用者支障のない一般見学者の受入	実施	1068人	—	一般見学者年間1068人			
		■電話・ホームページでの陶芸に関する質問への対応	実施	実施	—	神奈川県内個人より急須の鑑定依頼。ガス窯の点火についての質問。陶芸素材についての問い合わせ、電器ホームページ、スマートフォンサイト、フェイスブック			
5 陶芸センターに関する情報提供及び広報・プロモーション	◆Webサイトによる施設案内	■WEBサイトの活用	実施	実施	—	NTTタウン情報・ヨコハマアートナビweb版、webCMロケ地の提供			
		■ホームページ以外のWEBサイトへの情報掲載	実施	・ヨコハマアートナビweb版 ・web-cmロケ協力	—	各年アマチュア陶芸展入選作品			
		■ホームページ上のギャラリーの充実	実施	実施	—	陶芸ネットコム・陶芸広場、シンリュウホームページ、陶芸ショップドットコム			
	◆陶芸関係のサイト等を活用した広報	■陶芸関係WEBサイトの活用	実施	実施	—	ナビタイム			
		■無料の全国規模の習い事サイトなどへの情報提供	実施	実施	—	『横浜アマチュア陶芸展』チラシを全国陶芸教室・美大・美術館720通、個人285通発送			
	◆(指定期間5年間に於いて)陶芸センターの知名度アップ	■陶芸祭・「全国公募・横浜アマチュア陶芸陶芸フェスティバル」を通して近隣地区及び全国的に知名度を上げる	実施	実施 (1005通)	—	ヨコハマアートサイトより取材依頼			
		■メディアの取材に対する積極的対応	実施	実施(1件)	—	1日体験講座は3~4ヶ月ごとに更新、貸室・自由作陶教室は毎年1回更新			
◆外国の方向けの情報発信方法の検討	■英語版チラシ・パンフレットの設置	実施	実施	—	1日体験、貸室、自由作陶教室英語版				
	■英語で受講できる自由教室受講の案内	実施	実施(3件)	—					



平成30年度 横浜市陶芸センター 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H30年度計画		実施状況		評価		
II 施設運営目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
1 作陶活動のための施設の提供	◆適切な施設開館及び施設の貸出	□開館日数356日、休館日9日 (休館日:清掃・空調機点検2日、電気点検1日、年末年始6日)	開館日数356日、休館日9日	355日開館	蛍光灯PCB検査で1日休館	【成果】 新たに茶そば釉を導入し、焼成パターンや釉薬の比重による結晶釉の表出を楽しめるようにしました。  【課題】 特筆すべき事項なし。  【更なる取組を期待する点】 ・引き続き、施設利用者に寄り添った丁寧な施設運営に期待します。	【評価する点】 ・目標どおり施設を開館し、貸室の稼働率が100%と高く活用された点、貸室利用料金収入も目標を上回った点を評価します。 ・施設スタッフを適切に配置し、円滑な施設運営を行うことができています。 ・施設利用者やスタッフの意見により、作陶スペースの改良を重ね、より使いやすい施設とするための取組を行った点を評価します。	
	◆公園条例に基づいた利用料金の徴収	適切な利用料金の徴収 ■陶芸成形室半日500円 ■焼成料100gまでごとに 100円	実施 実施	実施 実施	各点検休館日、蛍光灯PCB検査、			
	◆各種講座・新規利用者・貸室の利用率増加のための工夫	□貸室稼働率 □貸室目標利用者数 □貸室目標利用料金収入(焼成料含む)	100% 5,400人 4,200,000円	100% 5,312人 4,276,650円	B B B			開館日数349日、貸室利用日数349日 稼働率100%
		■新規・長期利用者が、新講座へステップアップできるよう、作品のテーマ、釉薬、使用する土の工夫をする。	実施	実施	—			新色の茶そば釉の導入、磁器土を使用する泥漿鉢込み・アクセサリー講座の開催。
2 利用者ニーズの把握及び利用者サービスの向上、アイデアノウハウの一層の活用	◆アンケートを活用した利用者サービス向上と利用促進	■利用者アンケートを実施	全講座で実施	全講座で実施	—	【成果】 次年度の新釉薬導入にあたり、利用者からのアンケートや釉薬人気投票を行い、利用者全体で楽しめる施設の雰囲気づくりを心がけました。高齢の方や車椅子を使用されている方のために、床上電源配線を吊下げコンセント式に改良工事を実施、講座教室コンクリート床の段差解消、施釉コーナーの計量機を中型のものに入れ替え、移動しやすい通路に改良しました。また、亀板の収納棚を2ヶ所設置、粘土倉庫内天井部分に収納スペースを増設、既存の粘土販売箇所を事務室一箇所に変更し、利用者の利便性に配慮しました。  【課題】 収納スペースの不足はなかなか解消されませんが、経年劣化した不要在庫などの処分が必要です。	【評価する点】	
		■アンケートからの改善の実施	実施	実施	—			全講座と貸室・自由作陶教室 新釉薬の導入、動線通路電源コードの改善、教室床コンクリート段差の解消、 6団体、39名受入
		■利用者への支障のない「一般見学者の団体」の受入 ■穴窯講座への団体見学の受入	実施 令和2年に実施予定	実施 令和2年に実施予定	—			自由作陶教室、講座教室の電源配線の改良、貸室・自由作陶教室での粘土販売場所を事務室1箇所に集約。亀板専用棚の制作、設置2ヶ所 釉薬場、アドバイザー用大型事務処理機を中型に交換。
	◆(指定管理期間において)施設スペースの有効利用方法等の検討	■講座教室内のレイアウト変更に伴う作陶スペース拡張 ■釉掛けスペースの改善と移設の検討 ■不良在庫等の廃棄による保管スペースの確保	実施 実施 実施	実施(3件) 実施(2件) 実施	— — —	既存劣化釉薬用ポリバケツの廃棄、粘土保管スペース天井部分に収納スペースを増設。		
3 組織的な施設運営	◆適切な運営組織体制と人材の配置(毎日2名以上の勤務体制) (センター長1人、所長1人、副所長1人、事務員2人、講師9人、貸室アドバイザー6人、助手1人)	■センター長1人、所長1人、副所長1人、事務員3人、講師9人、貸室アドバイザー6人、助手1人	実施	実施	—	【成果】 H30年度より事務部門と指導部門の円滑な連携を図るため、1ヶ月に1回の朝礼を実施。スタッフの意見も講座運営に活かし取り入れました。事務部門、指導部門の全体的なレベルアップを目指し、お客様対応、陶芸の専門的知識の向上のための情報共有ファイル、打ち合わせ会議を実施しました。  【課題】 講座が多岐に渡るため連絡ミスにつながらないように、情報共有、連絡事項の徹底、事務部門、指導部門のコミュニケーションの円滑をさらに図り、役割分担、業務の効率化を進めます。	【評価する点】	
	◆適切かつ効果的な勤務体制の確立 ・各講座の指導部門では、講座担当の講師、貸室担当の貸室アドバイザー、それらの助手を配置。 ・事務部門と指導部門の円滑な連携を図るため、貸室アドバイザー・講師を兼務できる社員を1名配置。 ・事務部門に基本的な陶芸の知識、指導部門に専門知識等を提供し、全体的な知識のレベルアップを図る	■センター長月3日、所長週3~4日、副所長週5日、講師、貸室アドバイザー、助手をローテーション勤務、事務部門は毎日2人以上のローテーション勤務	実施	実施	—			講師1名、事務員1名減がりましたが、勤務ローテーションを組み立てなおし事業に支障なく運営。
		■職務分担表により効率的な業務遂行	実施	実施	—			一ヶ月ごとの勤務スケジュール作成と一週間ごとの焼成スケジュール表の作成
4 個人情報保護等、本市の重要施策を踏まえた取組	◆個人情報保護・情報公開、人権尊重、環境への配慮、市内中小企業優先発注等の取組の実施	■法令、条例及び規則を遵守し、利用者の個人情報の取扱いを適正に行い、事故の内容に努める ■マイナンバー利用者の個人情報漏えい防止のため、組織的・人的・物理的・技術的安全管理処置を講じる ■情報公開規程に則り、情報開示請求等の適切な対応 □人権に関する職員研修年1回 ■近隣地域への管理・運営上の近隣への迷惑行為への十分な留意、対策の実施 ■横浜市中小企業への優先発注	実施 実施 実施 1回/年 実施 実施	実施 実施 実施 1回/年 実施 実施	— — — B — —	個人情報保護の徹底管理と個人情報保護に関する年1回の研修の実施。 個人情報のシミュレーション本社においての施設管理とパスワードでの情報管理 情報開示請求0件 人権に関する講習年1回の実施 公園内の安全速度通行、公園内業務通行車両への通行証の発布と安全走行の指示 新聞広告依頼、電気設備工事 館内清掃業務他		

平成30年度 横浜市陶芸センター 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H30年度計画		実施状況		評価		
Ⅲ維持管理目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
1 施設及び設備の維持保全及び管理、公園管理	◆施設の安全・安心・快適環境維持と長寿命化対応の実施	□清掃業者委託による清掃	毎日	毎日実施	閉館日すべての毎日清掃	【成果】 毎月の機能点検による電気炉ヒーター線の早めの補修と自前交換作業による経費削減効果。  【課題】 次年度に夏場の猛暑を備え、土埃の多いセンターでは室内空調機9台の洗浄とオーバーホールが必要となります。  【更なる取組を期待する点】 ・築50年と老朽化が進んでいる中、引き続き小破修繕を適切に実施するとともに、施設の不具合箇所を本市と共有するようお願いいたします。	【評価する点】 ・指定管理者の専門性やノウハウを生かし、電気窯のヒーターのメンテナンスを自前でを行う等により、経費削減に努め効率的な施設運営を行った点を評価します。 ・施設床段差の解消や電気クロロ用コンセント配線の改良等、施設をより安全に使うための取組を行った点を評価します。 ・防災訓練の実施やAEDの点検も計画的に実施しており、危機管理対策に適切に取り組んでいます。	
		□定期清掃	2回/年	2回/年	年2回の全館定期清掃の実施			
		■管理標準チェックリストの記録	実施	毎日	—			毎日の管理標準チェックリストの記録
		■施設設備の日常点検	実施	毎日	—			毎日の見回り点検の実施
		■早めの自前小破修繕による高額修繕費支出回避	実施	実施	—			電気炉ヒーター線の補修、軸掛け用コンプレッサー圧力調整弁の修理。
		□空調機器定期保守点検	2回/年	2回/年	B			年2回の定期点検の実施
	◆保守点検、備品管理、環境維持の実施	■給排水設備点検	随時実施	随時	—			年2回の排水枡と側溝清掃実施と給水設備の毎日点検。水道栓修理8件
		■電気設備点検	随時実施	随時	—			毎月の電気施設簡易点検(本牧市民公園契約点検業者による)と自主簡易点検
		□消防設備点検	2回/年	2回/年	B			年2回の非常警報設備と非常避難路、消火器の点検
		□窯業機械の機能点検	毎月	1回/月	B			毎月の窯業機械機能点検の実施
		□窯業機械の保守点検	1回/年	1回/年	B			年1回の陶芸窯の定期保守点検の実施
		□下洗い箱を設け、粘土、釉薬が直接流れないように管理	毎日	毎日	B			毎日の下洗い箱の設置
◆公園の管理区域内の環境維持	■建物の美観維持のため屋根の松葉清掃や登り窯周辺の草刈	実施	随時	—	年3回の屋根の松葉清掃と登り窯周辺の清掃			
	◆公園管理者との連絡調整	■工事修繕他による車両の出入りの連絡調整	実施	随時	—	毎月のゴミルート回収車、電気設備工事車、自動販売機の入替業務、陶芸材料搬入の公園内通行の連絡調整		
	◆小破修繕の取組	■見回り点検による適切な維持管理	実施	実施	—	コンクリート床段差の解消。水道栓コマの交換。灯油窯バーナーのオーバーホール。		
2 小破修繕の着実な実行	◆小破修繕の取組	■修繕部品の直接購入による修繕コスト削減	実施	実施	—	【成果】 水道栓のコマ、蛇口などの早めの自前修繕。  【課題】 水周り関係部品の経年劣化による交換作業と蛍光管の交換が増加しています。早めのLED化が必要です。		
		■早めの小破修繕による高額修繕費の回避	実施	実施	—			
		■緊急連絡網の整備と迅速な市への報告	実施	実施	—			
3 事故予防及び緊急時の対応	◆事故防止体制・防犯、緊急時の対応・感染症対策等衛生管理の実施	□AED操作研修	2回/年	2回/年	B	年2回の防災訓練時でのAED操作研修		
		■警備業務一覧を職員全体で認識共有	実施	実施	—	スタッフ全員による毎日の退館時点検とWチェック体制の実施		
		■日常の見回りによる危険箇所の発見	実施	実施	—	スタッフによる館内危険箇所の報告と改善の実施		
		■消毒石鹸、アルコールでの感染症対策と嘔吐物処理のマニュアル化と全職員で共有	実施	実施	—	体調不良者の報告と迅速な対応。消毒用アルコールの設置		
		■蚊の発生源の除去と野鳥の死骸の報告	実施	実施	—	水溜りの除去		
		■警備保障会社による24時間警備(機械警備)	実施	実施	—	総合警備保障社による24時間の機械警備監視カメラ4台の設置		
4 防災に対する取組	◆日常の取組、危機管理マニュアルの整備、防火・防災の取組、災害備蓄等の実施	■緊急連絡網の整備と迅速な市への報告	実施	実施	—	転倒事故の迅速な報告と応急処置及び救急車の手配		
		□利用者も含めた防災避難訓練	2回/年	2回/年	B	年2回の全員参加型の防災訓練とAED取り扱い説明。		
		■焼成についてスタッフの安全教育、防火管理の徹底	実施	実施	—	陶芸窯の取扱、焼成管理、注意事項の共有と防火管理の徹底		
5 その他管理に関する事項	◆日常の取組、危機管理マニュアルの整備、防火・防災の取組、災害備蓄等の実施	□防災用品を準備、備蓄、更新をする	2回/年	3回/年	A	年3回の防災用品の更新と準備		
		■使用済み粘土、釉薬を毎日適切に管理する □産業廃棄物の管理状況をチェックし、横浜市ルート回収にて適正に廃棄する	実施 チェック実施 1回/月	毎日実施 1回/月	B	曜日担当スタッフ全員による毎日の管理 毎月の産廃のチェックの実施とルート回収による廃棄		



平成30年度 横浜市陶芸センター 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H30年度計画	実施状況		評価		
IV 収支	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
1 適切な収支構造及び収支バランス	1	●収益の改善と固定経費の削減努力 ■陶芸材料の在庫管理を徹底し、計画仕入れを行う	実施	実施	不良在庫の削減と粘土の再生。講座ごとの計画仕入。	【成果】 新企画のチャレンジ講座や、三溪園共催講座(楽焼・御点前)など利用者の増加が見込まれる講座の受講率が順調でした。  【課題】 次回共催講座は利益率を考慮した受講料に改定する必要があります。  【成果】 利用者アンケート、要望により一日通し染付け講座が開催。じっくり絵付けに専念することができました。 【課題】 チャレンジ講座開催が独自グッズの企画につながりました。ラクビーワールドカップ、オリンピック・パラリンピックに向けて観光客対応の陶磁器お土産グッズの試作・改良を重ねます。	【評価する点】 ・利用料金収入が予算を上回っています。また、自主事業収入の予算は達成していないものの、前年度実績を上回っており、施設が取り組んできた各種取組の成果が表れているものと考えてます。限られた予算を効率的に執行し、施設を適切に運営しているものと評価します。
		■修繕費用の突然支出に備え建物、設備の劣化箇所を常に点検し把握する	実施	実施	毎日の見回り点検。		
		■利用者数の増加が見込める新規講座を企画する	実施	実施	伝統古典釉薬講座の開催、磁器土を使用する錆込み・アクセサリ講座。		
		■四半期末での収支の予測	実施	実施			
2 指定管理料のみに依存しない収入構造の検討	2	◆指定管理料のみに依存しない収入確保の取組	■自主事業講座の受講率を高め、増収を図る	実施	実施	利用者アンケートと要望による講座の設定	【更なる取組を期待する点】 ・引き続き収支バランスに配慮しながら、収入増に取り組んでください。
		■上級講座による利用料増収	実施	実施	磁器土泥漿の石膏型錆込み講座、1日染付け講座		
		■独自グッズの開発、販売の可能性を図る	検討	サンプル作成	練り込み技法組合せアクセサリ販売の検討とサンプルの作成		
		■陶芸材料の販売価格見直しの検討 紙やすりの有料化	実施	実施	一部陶芸用小道具の値上げ。		
3 経費削減及び効率的運営努力	3	◆経費削減等効果的運営の取組	●固定経費の削減努力等 ■消耗品、事務用品の節約による事務経費削減、利用者からの古新聞・古布の再利用。	実施	古新聞・エアバックン・梱包材・ビン・紙袋・洗濯機・手桶・タオル・雑巾を利用者より寄贈、再利用	利用者からの古新聞・紙袋・古布・洗濯機のセンターへの寄贈。	【成果】 灯油の直接買い入れによって年間104,000円の経費削減ができました。  【課題】 電気設備の一部修繕は外注となるので、蛍光灯の安定器など今後は修繕費の増加対策が必要となります。
		■材料の直接仕入れによる輸送コスト削減	実施	陶芸材料他仕入れ	陶芸材料等の重量物の輸送コスト削減		
		■液化燃料(灯油)の直接購入による経費削減	実施	年間104,000円削減	灯油窯用の灯油の直接購入による年間104,000円の削減		
		■自前修繕による修繕経費の抑制	実施	18件	水道設備、電器炉、灯油バーナー、電動ロクロ、自転車。吹き付け用コンプレッサーの修繕		

総括	特記(提案事項要旨)	達成指標	説明	自己評価	行政評価
				平成30年度事業はフェイスブック・陶芸センターホームページ・スマートフォンサイトなどを活用し、若年層や新規受講者を取り込む工夫を試みました。陶芸の民芸調のイメージと少々乖離したカラフルなアクセサリや、カップに取手を作成する泥漿錆込み講座や、低温焼成後に水彩ガッシュでカラフルな彩色を施す動物置物講座など、明るい色調の講座を開催しました。また、反対に少し渋めな本格的陶芸講座を企画し、初めての方にも気軽に参加できる講座を開催しました。伝統古典釉薬を一日体験教室で気軽に「唐津焼、織部釉、青磁釉、黄瀬戸釉、油滴天目釉、備前土」作陶体験が出来る様にスケジュールを組みました。伝統古典釉薬講座参加者には10代(親子での参加含む)~70代の幅広い年齢層の参加がありました。またアンケート等を利用し、次年度の新企画講座の材料を探りました。初めて受講された方や、土曜・日曜で作陶希望の方(平日仕事の方)の意見により、次年度開催の講座『3日間週末陶芸』(成形、高台削り、下絵付け、釉薬掛けまでの工程)の企画につながりました。陶芸センター利用者の高齢化とともに建物や備品、設備も経年劣化し、交換の追いつかない部分も出てきており、設備管理費の出費が膨らみ始めております。しかし、天井が高く太い自然木の梁で構築されている陶芸センターは他にはない魅力があり、この建物と崖と公園のロケーションが何年もの間、人に足を運ばせる原動力だったのかもしれない。利用者は徐々に回復しており、引き続き私達の企画運営力とたゆまぬ情熱が擦り切れないように努力して行きたいと思っております。	利用人数が平成29年度と比較し、4%増となり、耐震補強工事による休館前の利用者数に近づいてきました。魅力ある講座企画、指定管理者の専門性をいかした各種講座の企画、利用者の声に応えたきめこまやかな施設運営等、様々な工夫を重ねた成果が出ているものと評価します。特に、各種講座の企画にあたっては、受講者やスタッフからの意見を取り入れ、技法やプログラム構成を見直し、講座の質を高める取組が、満足度の向上やリピーターの確保に繋がっています。また、三溪園と連携した講座の企画、招待作家による縄文土器の製作では、市外施設での野焼きの企画と、陶芸センター内のみにとどまらず、作陶の魅力伝えることに寄与できました。施設の利用者、講座の参加者の分析を行い、今後もより多くの市民の皆さんに参加してもらえよう、魅力ある企画づくりに活かしてください。特に子ども向けの講座をはじめ、次世代育成にも繋がる講座等の企画により、より幅広い層へ陶芸の魅力伝える取組を継続して行ってください。今後も専門性を活かし、質の高い運営を保持することで、市内唯一の公的な作陶専門施設としての役割を果たし、存在感を発揮することを期待します。